

豪雪災害の概要

12月から降り続く雪は、飯山市に大きな被害をもたらしています。2月5日現在、飯山観測所で積雪量256cmを記録し、いわゆる「59豪雪」時の257cmと肩を並べるに至っています。特に12月としては過去最多を更新し、正月明けには、自衛隊の災害派遣を要請する事態となり、高齢者世帯や幹線道路の危険な箇所の除排雪が優先的に進められました。

県内からは、豪雪の様子を伝える報道で飯山の苦境を知った多くのボランティアの皆さんが駆けつけ、高齢者世帯などで除雪に当たってくれました。

また、国の関係者や各省庁の職員が飯山市を訪れ、豪雪状況を視察。市では、除雪経費に対する補助など財政的な支援等を強く要請しているところです。

一方、各地区の克雪活動推進協議会では、例年降雪前に市側から除雪計画や雪害救助員に関する説明を行っていますが、今冬の豪雪を受けて、行政で対応が難しい一般住宅の雪下ろし等に関しては、地域の互助・共助で乗り切ってほしいと要請しました。また、地域住民自ら水害や地震時の災害対応に当たる自主防災組織の雪害に関する活動内容をあらためて確認しました。

自衛隊の除雪活動



4ページ写真：陸上自衛隊が1月7日から5日間にわたり市内各地で除排雪作業に当たってくれた。幹線道路や、雪下ろしの負担が大きい高齢者世帯等の危険箇所を緊急・優先的に作業を実施。家屋倒壊の不安が解消され、安堵感が広がった。



撤収式で自衛隊員に手を振る市民の皆さん



豪雪災害対応の概況（2月5日現在）

大雪に対する市の体制と経過

12月15日	警戒の態勢（警戒1次体制）
12月26日	豪雪警戒本部設置（警戒2次体制）
12月27日	豪雪災害対策本部設置（非常1次体制）
1月6日	長野県へ自衛隊の派遣を要請
1月6日	長野県が自衛隊へ派遣を要請
1月7日	自衛隊が除排雪作業を開始
1月7日	災害救助法適用
1月12日	災害時要援護者世帯等の緊急危険排除作業完了のため自衛隊撤収
1月13日	除排雪経費として約3億円の追加補正予算案を決定
1月17日	災害救助法適用延長
1月26日	災害救助法適用終了

市道除雪活動状況

▼活動日数	42日間（12月11日～2月5日）
▼稼働した重機・人員（延べ）	ドーザー1310台・ロータリー1078台・ダンプ490台・職員2833人
▼要した費用	約3億5000万円（委託料借上料等）
▼市道の状況	幹線道路でも1車線確保が限度の路線多数発生。枝線は未実施状態が継続。
▼通勤時間帯の渋滞により、救急車・消防車等緊急車両通行不能の状態が各所で発生。市街地で顕著。	

雪害救助員の活動状況

▼雪害救助員登録者数：160人（単価：1万1000円/日）
▼対象世帯数：325世帯（その他、独り暮らし老人、高齢者世帯等1051世帯）

災害時要援護者の支援状況

▼雪害救助員：約1000人（12月10日～1月18日）
▼自衛隊・市職員・消防署員・ボランティアによる除排雪作業1242人（1月7日～1月16日）

被害状況

▼人的被害：死亡3人、負傷33人（屋根雪落下、除雪中の被害）
▼建物被害：住宅（全壊3棟、一部損壊21棟）、車庫・物置等（全壊9棟、一部損壊24棟）、その他（全壊2棟、一部損壊14棟）

▼停電：照里周辺170戸（12月13日）、一山周辺200戸（12月13・14日）、瑞穂周辺10戸（12月20日）、小菅周辺100戸（1月1日）、常盤周辺170戸（1月5日）、常盤寿周辺120戸（1月8日）、南町周辺210戸（1月14日）、関沢周辺40戸（1月27日）
▼自主避難世帯数：最多で10世帯17人（道路除雪5世帯12人、住宅雪下ろし5世帯5人）

自衛隊の活動状況

▼（災害時要援護者世帯・幹線道路の緊急危険排除作業）
▼期間：1月7日～11日（5日間）
▼作業人員（延べ）：430人（連絡調整・後方支援隊含めて603人）
▼活動内容：市営住宅12棟、災害時要援護者世帯の民家14戸の除排雪作業（緊急危険排除世帯数の合計は62世帯）
▼道路除排雪：総延長約700m

警察の活動状況

▼除排雪作業等の交通誘導（延べ）：103人
▼消防署の活動状況
▼当直者10人が緊急災害出動に備え待機

県の活動状況

▼国・県道除雪車両が市道を除雪（ロータリー2台・ダンプ3台により18・6km実施。1月11日～20日）
▼延べ16人が市職員16人と交差点視界確保、歩車道間雪壁除去作業（1月10日～13日）

市職員の活動状況

▼市職員延べ300人により、災害時要援護者の現地確認や個別ケースワークを進め援護活動を行う（1月5日～13日）
▼延べ90人が災害時要援護者世帯の雪下ろし（1月8日～13日）
▼延べ1009人が交差点視界確保、歩車道間雪壁除去、除排雪誘導、公共施設雪下ろし等作業（12月27日～1月20日）
▼災害時要援護者世帯を含む市内の状況調査を継続実施

ボランティアの活動状況

▼災害時要援護者世帯145軒の家屋周辺の除雪（延べ716人、1月7日～16日）
▼74人が交差点視界確保、標識、信号操作盤周辺の除雪、福祉施設の雪下ろし作業（74人）

地域の活動状況

▼災害時要援護者の状況把握のため、区長・民生委員による緊急調査を2回実施。▼地域内の落雪危険箇所の把握と現地を告知表示。▼区役員による雪下ろし作業

ボランティア続々と



①⑤県内から多くの除排雪ボランティアが飯山市を訪れた。1月7～16日の間で延べ716人が高齢者世帯などの除雪に参加してくれた。



⑥陸上自衛隊の幹部も市役所を訪れ、木内市長が除雪活動に対する感謝の意を伝えた。右は、第十二旅団長。右下は同旅団司令部幕僚長（中央）



高齢者世帯の雪下ろし作業を行う市職員



△樹齢1400年と推定され、長野県天然記念物に指定されている木島地区下木島の大ケヤキが雪の重みで倒木（1月4日）

国の視察団相次ぐ



△12省庁等の調査団が、藤沢区集落内や、しらかば保育園などを視察（1月16日）。



△参議院国土交通委員会（羽田雄一郎委員長）が雪捨て場などの状況を視察（1月16日）。



△国土交通省吉田博美政務官と同省職員が西大瀧区の積雪状況などを視察（1月27日）。



△小坂憲次文部科学大臣が、市内中学校体育館の屋根雪落雪現場などを視察（1月15日）。